

日本医師連盟ニュース 1面抜粋

2017/6/25 (Sun.) 第105号

日本医師連盟ニュース

日本医師連盟ニュース
— 発行所 —

日本医師連盟

東京都文京区本駒込5-73-3
駒込SKビル1F
〒113-0021
TEL: 03-3947-7815
FAX: 03-3947-2662
E-mail: info01@nichiiiren.jp

<http://www.nichiiren.jp/>

定価 1年400円 (但し日医連負担金に含む)

日医連執行委員会 開催 平成29年度交付金 30%に決定

日本医師連盟は5月16日、日医会館で常任執行委員会、執行委員会を開催した。日本医師連盟交付金を昨年度と同じ30%にすることが決まった。

横倉義武委員長は執行委員会冒頭で次のように挨拶した。
「六月の初めに『骨太の方針2017』が策定されるということ、今の最大の関心事は、来年度予算の編成方針、社会保

障の財源の書きぶりがどうなるかということである。五月九日、自民党高村正彦副総裁を会長とする国民医療を守る議員の会が開催され、こちらから要望をさせていた。議員の会としての提言をとりまとめて厚生労働省をはじめ官邸へ申し入れをするということで準備を進めていた。日医連の活動は、日本医師会の考える医療政策を実現させるために、政治活動を行っていくことである。このよう



挨拶する横倉義武委員長

な関係を築いていただいていることによるものであり、心より感謝申し上げます。今年の二月、各都道府県から若い世代の先生二名、それと委員長にもお集まりいただき、医政活動研究会を開催して、昨年の参議院選挙の反省なうにこれからの活動について議論した。そのなかで、日医の政策実現のための医師連盟活動の強化の必要性に関する話もお聞かせいただいた。また、四月には自民党青年局の一員である自見はなこ参議院議員の尽力もあり、自民党青年局所属の国会議員と医師会将来ビジョン委員会の先生方をはじめとする若手日医会員の先生方と懇親の機会を実現した。自民党の若手議員はどちらかというと財政主導型の考えが多いのだが、その先生方に日医の活動について説明することができ、互いの理解を大



日医連執行委員会

いに深めることができた。さまざまな活動を通じて、医師連盟活動を強化し、国民医療を守るような体制をつくっていきたい」
そのうち、議事に入り、今村聡副委員長から、「平成二十九年度の都道府県医師連盟への交付金は、日医連推薦議員が二名になっていること、日医連の財政状況も勘案し、昨年度と同様三〇%の交付としたい」との提案があった。出席者より、地元での連盟活動を積極的に行うために、もう少し交付金を増やしてほしいという要望が出された。執行部より、参議院議員選挙時に、以前は特別会費を徴収していたが、羽生田俊先生、自見はなこ先生の選挙の際には徴収していないことが説明された。三〇%の交付にするという提案は、原案どおり全会一致で承認された。
また、今村副委員長より、京都府医師連盟から選出されている執行委員が安達秀樹氏から松井道宣氏へ変更されたことが報告された。

自民党議員連盟「国民医療を守る議員の会」総会開催

国民が安心できる
社会保障に必要な財源の
確保を



左から 野田毅顧問、横倉義武委員長、高村正彦会長、
鴨下一郎会長代行、武見敬三幹事長、上川陽子会長代理

の総会が開催された。

総会には約百八十名を超える議員（代理含む）が出席し、日医連（日医）からは横倉義武委員長をはじめ、役員が出席した。

高村会長は冒頭の挨拶のなかで「平均寿命が世界一になって久しいが、このことは国民皆保険制度が維持され、全国津々浦々で良質な医療が提供されていることによるところが大きい。そうであるならば、国民皆保険制度を持続可能にするのと同時に良質な医療を提供できる環境を持続可能にしなければならない」と述べた。

五月九日午前八時三十分より、衆議院第一議員会館において、自民党所属議員による議員連盟「国民医療を守る議員の会」（会長＝高村正彦自民党副総裁）

国民が安心できる社会保障へ向けた決議（抄）
超高齢化社会においては、国民に安心で良質な医療提供体制を確保し、世界に冠たる皆保険制度を維持していくことが、国民的課題である。

- 一、予防重視
 - 一、技術革新への対応
 - 一、患者本位の医療の実現
 - 一、経済成長を促し、地方創生へつなげる医療従事者の確保と処遇の改善
 - 一、薬価制度の抜本改革
 - 一、病院機能の強化と地域包括ケアの中心となる「かかりつけ医」の評価
 - 一、適切な社会保障財源の確保
 - 一、公立病院への補助金の有効活用
 - 一、診療報酬、介護報酬以外での予算措置
- 右、決議する。

平成二十九年六月一日
国民医療を守る議員の会



国民医療を守る議員の会

続いて、横倉委員長は、二年半前の平成二十七年十二月診療報酬改定の際には、国民医療を守る議員の会の先生方には大変ご指導を賜った」と謝意を述べた。次に、現在の経済情勢の先行きが不透明で、財政健全化が求められているなか、「現在の診療報酬の水準では医療機

関の費用のなかに占める人件費の割合が低下し、医療従事者の人件費を圧迫する状況に陥っている。医療介護分野は雇用誘発効果が高く、アベノミクスの果実を活用して医療に財源を投下すれば、経済成長を促し、地方創成への多大な貢献につながる。また、社会保障を充実させれば、雇用創出・雇用拡大がもたらされ、経済成長とローカル

アベノミクスを通じて賃金上昇をもたらし、好循環が形成され、国民の将来不安の解消につながることを考えられる」と説明した。また、近いうちに決められる「骨太の方針2017」に対し七項目の懸念と、六項目の提言を明らかにした。

そのうち、出席議員との意見交換を行った。出席議員からは、消費税の一〇％への税率引き上げはもろろんのこと、所得税の累進構造の厳格化、資産課税の強化等正面から財源について取り組むこと、日医の積極的な広報活動、医学部教育のあり方、受動喫煙対策、高齢者の生きがいと医療費について等、多くの意見が寄せられた。

本日出席議員の意見をまとめ、議連として提言をまとめたので、取り扱いに関して、執行部に一任していただきたいとの申し出があり、了承された。後日、議員の会執行部において決議（別掲）がとりまとめられ、六月一日、菅義偉内閣官房長官、塩崎恭久厚生労働大臣を「国民医療を守る議員の会」幹部が訪問し要望を行った。

第20回医療政策研究会

骨太の方針2017について議論



横倉義武委員長

か、人の命、営みは簡単に割り切れるものではない。「骨太の方針2017」を策定するにあたり、医師会の先生方より誤りなきようご指導いただきたいとの挨拶があった。

7」に対して考える「懸念と提言」（別掲）について説明があった。



医療政策研究会

内閣府から、「骨太の方針2017」は国民のQOLを高める、健康への取組が大きな柱となる」との発言があった。厚生労働省からは、塩崎恭久厚生労働大臣が四月十二日の経済諮問会議で行った発言内容について

説明があった。そのうち、参加国会議員と日医連との間で意見交換が行われた。

四月二十六日、「医療政策研究会（自民党の中堅・若手議員と日本医師連盟との医療政策に関する勉強会）」が開催された。当日は七十七名の国会議員（代理を含む）、日医連役員、東京都医師政治連盟役員が出席した。冒頭、医療政策研究会会長の武見敬三参議院議員から、「骨太の方針2017に向けて」という資料が、経済財政諮問会議において民間議員より提出された。極めて包括的に「効率化」ということが随所に組み込まれ、財政規律の立て直しに大きなウェイトがかけられている。し

続いて、横倉義武日医連委員長は挨拶のなかで、「現在の診療報酬の水準では人、医療従事者の処遇をアップすることができない。医療従事者の処遇を改善できれば、とくに地方においては経済へ多大な貢献を行うことができる。アベノミクスの観点からも医療従事者への手当てをお願いしたい。厳しい財政事情は承知しているが、社会保障の充実、国民の将来の不安を解消し、明るい、高齢社会をつくっていく」と語った。

金蓮敏常任執行委員より、日医の考える「骨太の方針2017」

「懸念と提言」

「骨太の方針2017」への懸念

1. 社会保障関係費の伸びの抑制の継続
2. 薬価制度の抜本改革
3. かかりつけ医以外を受診した場合の定額負担（受診時定額負担）
4. 都道府県ごとの診療報酬の設定
5. 病床再編における都道府県の権限強化
6. 一億総活躍における介護処遇改善の増額に伴う医療財源の圧迫
7. 教育国債の発行（または子ども保険の創設）による社会保障財源の圧迫

「骨太の方針2017」に向けた提言

1. 地方創生
2. 働き方改革
3. 未来投資
4. 応能負担
5. たばこ対策
6. その他

日本医師会若手会員と 自民党青年局との意見交換会開催

四月二十七日、自民党本部において「日本医師会若手会員と自民党青年局との意見交換会」が開かれた。若手医師と、今後の医療政策を担っていく国会議員との意見交換を主眼に置いたこの会合は、平成二十七年の七月に続いて第二回の開催。

今回は自民党青年局から人数を絞って会を行いたいとの提案があり、日本医師会将来ビジョン委員会のメンバーを中心とした若手会員と、青年局（四十五歳以下の議員から構成される）所属議員との意見交換会となった。鈴木馨祐青年局長（衆神奈川7区、3期）と自見はなこ青年局次長（参比例、1期）の呼びかけにより二十三名の国会議員、十七名の医師会員が出席した。

口泰明組織運動本部長（衆埼玉10区、6期）が挨拶を行った。続いて、医師会を代表して横倉義武日医会長（日医連委員長）、今村聡日医副会長（日医連副委員長）が挨拶した。横倉会長は、会の開催について双方の出席者に謝意を述べたうえで、同世代の国会議員と医師会員が活発に意見を交換し合える場となるよう、とくに医師会員からの積極的な発言に期待を示した。



意見交換会



懇親会

国会議員・医師会員それぞれ
の自己紹介の
ち、佐原博之
師会将来ビジ
ン委員長が、医
師会の活動や医
療界を取り巻く
環境について説
明を行った。医
師会の沿革・概
要をはじめ、日
本とアメリカの
医療の違い、現
時点での課題と
今後の展望等に
関して、医療政
策も絡めなが
ら、資料を用い
て説明した。と
くに混合診療の
全面解禁につい
ては、国民皆保

意見交換に入ると、双方から発言が相次いで活発な議論が広がった。依然としてさまざまな課題が山積しているなか、かつまた診療報酬・介護報酬の同時改定を年末に控える時期にあって、「社会的共通資本」として

険制度を形骸化させ、さらなる医療崩壊を招きかねないことから医師会として強く反対している点を、長く時間を割いて身近な例とともに説明し、国会議員の理解を促した。

第一部が盛況のうちに閉会となり、場所を移して懇親会が行われた。中泉松司青年局団副部長（参秋田、1期）が司会を務め、鈴木青年局長・釜淵敏日医常任理事（日医連常任執行委員）の挨拶に始まり、自見青年局次長が乾杯に立った。懇親会からの出席となった国会議員も懇談に加わり、終了時刻いっぱいまで熱い語らいが続けられた。

に至りませんでした。死因究明等の推進に関する法案の参議院政策審議会の説明者にご指名いただきました。成育基本法議員連盟では事務局次長として、事務局長の羽生田俊先生とともに秋の臨時国会に向けて活動を活発にして参りたいと思います。加えて一月に事務局長として女性医療職エンパワメント議連を設立しました。今年に入り加速している働き方改革の波や、医療経営を支える財政基盤の安定化などの課題と、医療界を支える構成員



（左から）大沼みずほ参議院自民党副幹事長、高階恵美子女性局長、自見はなこ女性局次長、丸川珠代五輪担当大臣、橋本聖子参議院自民党議員会長

永田町トピックス

参議院議員の自見はなこ先生から、ご寄稿をいただきました

「第193回通常国会を終えて」

参議院議員 自見はなこ



今年一月から開会した第百九十三回通常国会が、六月十八日をもって閉会いたしました。委員会質問は一般質疑、精神保健福祉法、次世代医療基盤法、地域包括ケア改正介護保険法、医療法の一部改正法、厚生労働省設置法の一部改正法、児童福祉法改正など、昨年十一月からでは通算九回にも及びました。受動喫煙防止法案は、政府からの法案提出に至りませんでした。が、全国の先生方の署名を持って秋の臨時国会に臨みたいと思えますので、引き続き強力なご支援をお願い申し上げます。

自民党内では昨年の秋の税制改正から、年明けから三月までの予算案大詰めが始まり、六月の政府の『骨太の方針2017』の閣議決定に至る党内議論にまで関わることもできました。また議員立法では、会期中に提出



厚生労働委員会で発言

因の女性比率が急速に増えていることは密接に連動しており、全体のバランスを考えた議員立法の提出成立を目指しています。その他、骨髄バンク議連の事務局次長を拝命し、法案成立後三年の見直し時期を迎えドナー登録の伸び悩みや諸課題の解決に向けて活動しております。議員勉強会としては、救急車の出動要請が増加していくなかで、地域包括ケアや在宅や終活なども視野に入れた救急医療体制の勉強会と、医師のキャリアデザイン、とくに今年が平成三十二年度からの初期研修の見直しの案を決める時期であるた

め、厚労省と文科省を結ぶ議員勉強会を主催し先輩議員のご指導をいただいております。

今後は、医療ICTのなかで、医療情報システムの安全性を国として向上、担保する仕組みも必要であるとの観点から勉強会を立ち上げようと思っております。

我々医療界は、さまざまな課題があるなか、とくに本年は年末に六年に一度の医療、介護のダブル改定を控えております。横倉義武委員長をはじめとした日本医師連盟の先生方のご経験と英知によって、オールジャパンで乗り切っていきたいと思っております。今後も、羽生田先生と連携を取りながら国会活動に努めて参りますので、引き続きのご指導ご鞭撻をいただきますように心からお願ひ申し上げます。

※次号、参議院議員羽生田俊先生より、ご寄稿いただく予定です。